

大人の予防接種スケジュール

2025年5月作成

予防接種には、予防接種法によって対象疾病、対象者及び接種期間などが定められた定期接種と、予防接種法に定められていない予防接種や定期接種の期間外に接種する任意接種があります。接種については、かかりつけ医と相談し、効果や副作用等を十分理解したうえで接種を受けてください。

定期接種…予防接種法に基づき、市区町村が実施する予防接種です。原則として接種費用は公費(市区町村)で負担(一部自己負担あり)します。

ワクチン名		海外 渡航	回数	接種間隔	対象者	病気について	感染経路
インフルエンザ	不活化 ワクチン		1回	・毎シーズンに1回	定期接種 ・65歳以上 ・60～64歳で身体障害者手帳1級相当の心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫の機能の障がいのある人 任意接種 ・予防したい人	インフルエンザウイルスによって引き起こされる急性の呼吸器感染症です。1～3日間ほどの潜伏期間の後に、咳、のどの痛み、鼻水、発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。毎年冬に流行しやすく、子どもや高齢者、基礎疾患を持つ患者の方は重症化リスクが高いです。	飛沫感染 接触感染
新型コロナ	mRNA ワクチン	★				新型コロナウイルスによって引き起こされる呼吸器感染症です。新型コロナウイルスは、変異を続けています。症状は人によって異なり、無症状の人もしれば、重症化する人もいます。よく見られる症状は、発熱やのどの痛み、咳が中心です。重症化すると肺炎を起こすこともあります。特に高齢者や基礎疾患等のある方は重症化リスクが高いです。	飛沫感染 接触感染
肺炎球菌 (PPSV23)	不活化 ワクチン		1回	・5年以上あける	定期接種 ・過去に接種歴がない65歳 ・60～64歳で身体障害者手帳1級相当の心臓、腎臓、呼吸器の機能またはヒト免疫の機能の障がいのある人	肺炎球菌は、鼻やのどの奥にいる肺炎の原因となる常在菌で、加齢などで免疫力が低下しているときに感染症を引き起こします。特に高齢者や免疫力の低い人にとっては命に関わることもあります。症状は、高熱、咳、胸の痛みのほか、血の混じった痰が出ます。高齢者では、症状がいまいなことが多く、発見が遅れると重症化しやすいです。	飛沫感染 接触感染
带状疱疹	生・不活化 ワクチン		1回(生) または 2回(不活化)	・不活化ワクチンの場合は1回目接種から2か月以上あける	定期接種 ・過去に接種歴がない65歳 ・過去に接種歴がない70、75、80、85、90、95、100歳(令和11年度まで対象)※令和7年度に限り100歳以上の人は全員対象 ・60～64歳で身体障害者手帳1級相当のヒト免疫機能の障がいのある人 任意接種 ・50歳以上	水痘(水ぼうそう)と同じウイルスが原因で起こる皮膚疾患です。水痘にかかったことがある人の神経にウイルスが潜伏しており免疫低下や加齢に伴いウイルスが再び活性化することによって発症します。皮膚症状の特徴として、皮膚に分布している神経に沿って、水疱が帯状に出現します。発疹が治った後も痛みが続くことがあります。また、目や耳に出た場合は合併症を発症する場合があります。水痘ワクチン未接種者などの免疫を持たない人が接触すると、感染して水痘を発症することがあります。	接触感染

任意接種…予防接種法で定められないもので、本人の希望や医師の判断で受ける予防接種のことです。接種費用は全額自己負担となります。

ワクチン名		海外 渡航	回数	接種間隔	対象者	病気について	感染経路
RSウイルス	不活化 ワクチン		1回	—	任意接種 ・60歳以上(アレックスビー筋注用) ・60歳以上、妊娠24～36週の妊婦(胎児の予防目的)(アブリスボ®筋注用)	RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。何度も感染する可能性があります。症状は、発熱、鼻水などの軽い風邪のような症状から重い肺炎まで様々です。特に、乳幼児や慢性呼吸器疾患等の基礎疾患を有する高齢者において重症化しやすいです。特攻薬がないため、予防がとても重要です。	飛沫感染 接触感染
おたふくかぜ	生ワクチン		1回	—	任意接種 ・予防したい人	流行性耳下腺炎あるいはムンプスとも呼ばれ、ムンプスウイルスによって起こる全身性感染症です。耳下腺(耳の下)が腫れるのが特徴です。基本的に咳などによる飛沫感染ですが、患者との直接接触や患者の唾液による直接・間接接触もあります。主に子どもがかかる病気ですが、大人がかかることも重症化しやすいです。	飛沫感染 接触感染
麻しん・風しん (MR)	生ワクチン	★	2回	・1回目接種から2か月以上あける	任意接種 ・2回の接種歴がない かつ 感染歴のない人 ※1990年以前生まれは、定期接種での2回接種がない人	麻しん(はしか)は、麻しんウイルスによって起こる、感染力が非常に強いウイルス感染症です。ワクチン未接種で罹患したことがない人が感染すると、ほぼ確実に発症するといわれています。合併症をおこしやすく気管支炎、肺炎、脳炎などが約30%の人におこり、肺炎や脳炎で亡くなる人もいます。 風しんは、風しんウイルスによって起こる、感染力が非常に強いウイルス感染症です。主な症状は、発熱、発疹、リンパ節の腫れです。子どもから大人まで感染する可能性があり、妊娠初期に感染すると胎児が先天性の障害(先天性風しん症候群)を起こします。	麻疹: 空気感染、 飛沫感染、接触感染 風疹: 飛沫感染、 接触感染

★ 海外渡航の際に接種が必要、あるいは検討されている予防接種です。詳細は、厚生労働省検疫所FORTH(https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html) をご参照ください。

大人の予防接種スケジュール

2025年5月作成

任意接種…予防接種法で定められていないもので、本人の希望や医師の判断で受ける予防接種のことです。接種費用は全額自己負担となります。

ワクチン名		海外 渡航	回数	接種間隔	対象者	病気について	感染経路
B型肝炎	不活化 ワクチン	★	3回	・1回目接種から2回目接種は4週間以上あける、1回目接種から3回目接種は20週以上あける	任意接種 ・ハイリスク者(医療従事者、透析患者、海外長期滞在者) ・予防したい人	B型肝炎ウイルス(HBV)が血液や体液を介して感染して起こる肝臓の感染症です。感染すると、急性肝炎(成人が感染)や慢性肝炎(主に乳幼児が感染)を引き起こし、肝硬変や肝がんに行進することもあります。急性肝炎の症状は、発熱、だるさ、食欲不振、黄疸などです。慢性肝炎の症状は、自覚症状が少なく長年かけて肝硬変や肺がんに行進することがあります。	血液媒介感染 母子感染
A型肝炎	不活化 ワクチン	★	3回	・1回目接種から2回目接種は2～4週間以上あける、2回目接種の1年後に3回目を接種	任意接種 ・A型肝炎流行地へ渡航する人 ・予防したい人	A型肝炎ウイルス(HAV)の感染して起こる、一時的な肝臓の感染症です。2～6週間の潜伏期間の後、38℃以上の発熱、全身倦怠感、食欲不振、頭痛、筋肉痛、腹痛等の症状がつづき、黄疸、肝腫大等の肝炎症状がみられ、2～3か月で自然治癒します。経口感染をするので環境衛生状態の悪い途上国では常時感染の機会があります。	経口感染
にほんのうえん 日本脳炎	不活化 ワクチン	★	3回または 1回	・初回接種が未完了の人は1回目接種から1～4週間後に2回目を接種、その後おおむね1年後に3回目接種 ・追加接種の場合は、5年あけて接種	任意接種 ・接種歴が3回なく予防したい人 ・日本脳炎流行地へ渡航する人	日本脳炎ウイルスに感染した豚の血を吸った蚊を介して日本脳炎ウイルスに感染します。日本では、最近は大きな流行はありませんが、アジアの広い地域で流行しています。	媒介物感染
しゅごんごう 3種混合 (DPT:ジフテリア・ ひやにちせき はししょうふう 百日咳・破傷風)	不活化 ワクチン	★	3回または 1回	・初回接種が未完了の人は1回目接種から3～8週間後に2回目を接種、初回接種から6か月以上(標準的には)あけてに3回目接種 ・追加接種の場合は、10年あけて接種	任意接種 ・接種歴が3回なく予防したい人 ・3回接種から10年以上経過しており予防したい人	ジフテリアは、ジフテリア菌によって発生する病気です。主に気道の分泌物によって喉などに感染して毒素を放出し、眼球や横隔膜などの麻痺、心不全をきたして重篤になったり亡くなる場合があります。 百日咳は、百日咳菌によって起こる呼吸器感染症です。初期症状は風邪のような咳や鼻水から始まり、次第に激しい咳が繰り返されるようになります。特に子どもは重症化しやすいです。 破傷風は、破傷風菌により発生する重い神経の病気です。主に傷口に菌が入り込んで感染を起こし毒素を通して、様々な神経に作用します。かかった場合に亡くなる割合が非常に高い病気です。	ジフテリア:飛沫感染、接触感染 百日咳:飛沫感染 破傷風:媒介物感染
はししょうふう 破傷風	不活化 ワクチン	★	3回または 1回	・初回接種が未完了の人は1回目接種から1か月後に2回目を接種、初回接種から6～12か月あけてに3回目接種 ・追加接種の場合は、10年あけて接種			
ずいまくえんきん 髄膜炎菌(4価)	不活化 ワクチン	★	1回(リスクが 高い人は2 回)	・1回目接種から8週以上あける	任意接種 ・2歳以上55歳以下 ・髄膜炎菌感染症流行地域へ渡航する人 ・学校の寮などで集団生活を送る予定の人 ・ハイリスク者(HIV感染症、補体欠損症、無脾症など)	髄膜炎菌により、脳や脊髄の表面を覆う髄膜に炎症が起きる病気です。主な症状は、発熱、頭痛、吐き気、まぶしさ、項部硬直(首がこわばって動かなくなる)、点状出血、紫斑等です。	飛沫感染 接触感染
おうねつ 黄熱	生ワクチン	★	1回	—	任意接種 ・感染リスクのある地域に渡航する人 ・入国に際して証明書の提出を求める国へ渡航する人	黄熱ウイルスを持った蚊が人を吸血することで感染します。感染しても症状がないか、軽い症状で終わってしまう場合もあります。症状は主として発熱、頭痛、悪寒、筋肉痛、背部痛、悪心、嘔吐などです。発症した場合には重症になるリスクの高い感染症です。	媒介物感染
きょうけんびょう 狂犬病	不活化 ワクチン	★	3回 (暴露前免疫)	・1回目を0日として、0、7、21日または0、7、28日	任意接種 ・動物研究者など、動物と直接接触する人 ・犬、キツネやコウモリなどの哺乳動物が多い地域へ行く人で、特に医療アクセスがよくない地域へ行く人	狂犬病は、犬に限らずほとんど全ての哺乳動物にかかります。その動物に咬まれ、人に感染すれば治療はなく、まず100%死に至ると言われています。日本での発症は、近年ありませんが、海外では発病している地域もあります。	媒介物感染

★ 海外渡航の際に接種が必要、あるいは検討されている予防接種です。詳細は、厚生労働省検疫所FORTH(https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html) をご参照ください。

任意接種について

- 自己負担金は、医療機関によって違います。
- ワクチンによっては、抗体検査を実施してから接種するものもあります。
- 副作用による疾患等が生じた場合は、独立行政法人医療品医療機器総合機構による副作用救済制度の対象となる場合があります。接種を受けた医療機関にご相談ください。

その他

- 医療機関によって取り扱っていないワクチンもあります。

<問い合わせ>

阿賀野市 健康推進課 健康づくり係
Tel 0250-62-2510(代表)